

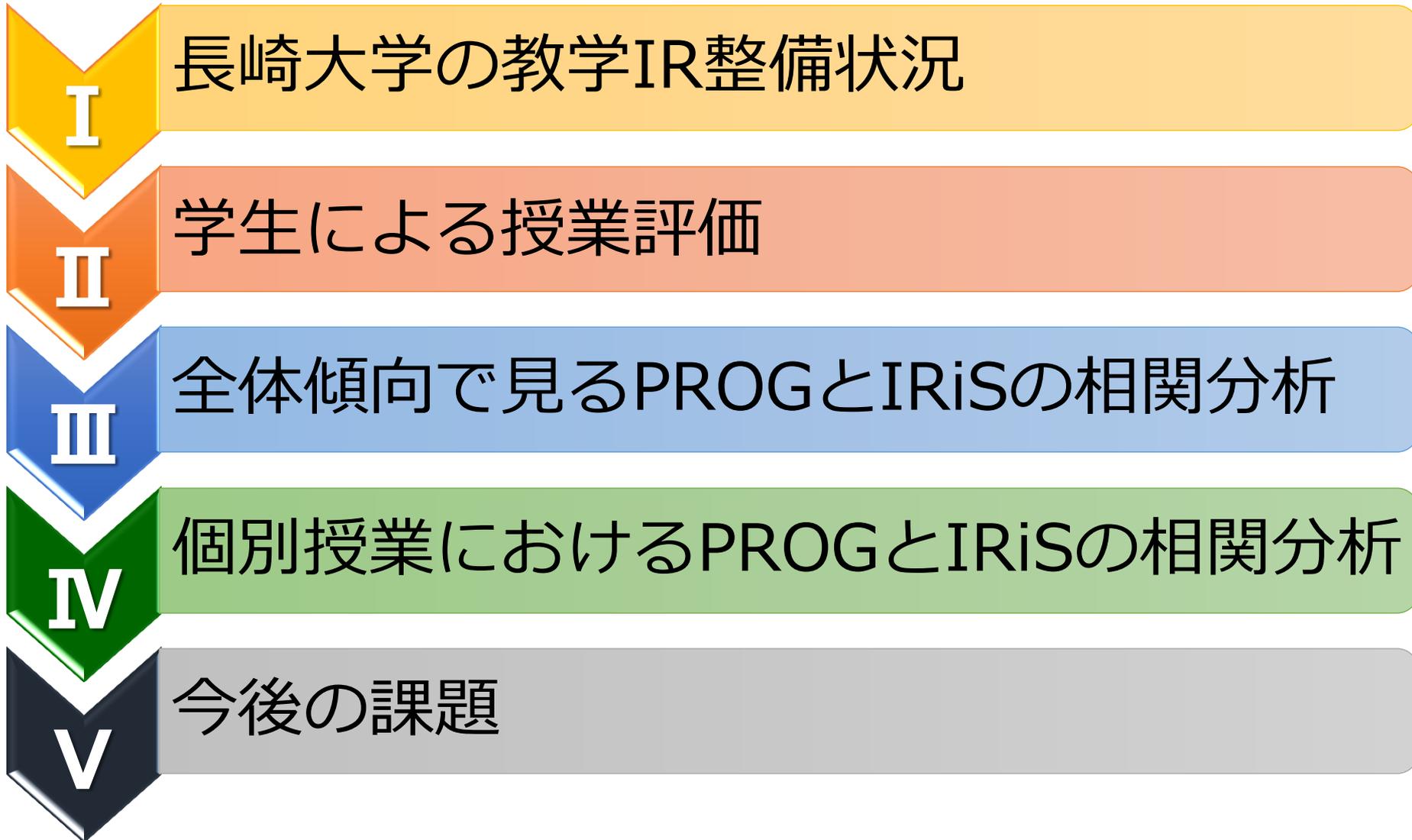


長崎大学の教育改革推進戦略

長崎大学 大学教育イノベーションセンター

川越 明日香

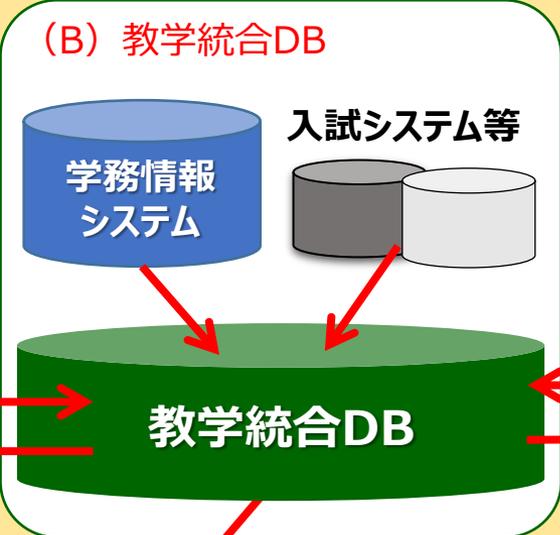
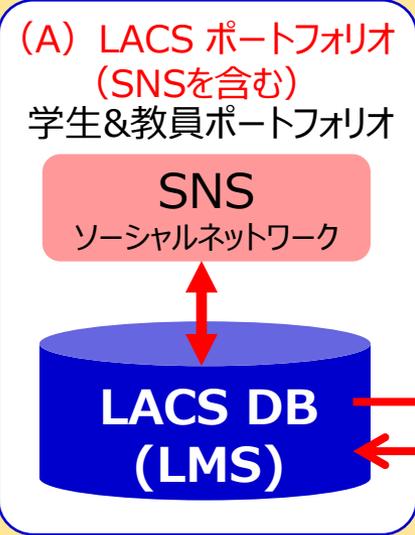
本報告の構成



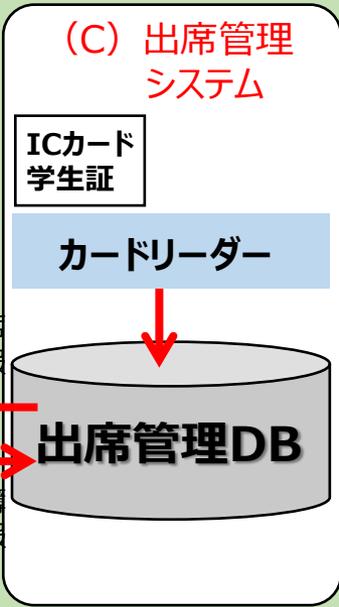


ICT基盤センター（システム担当）

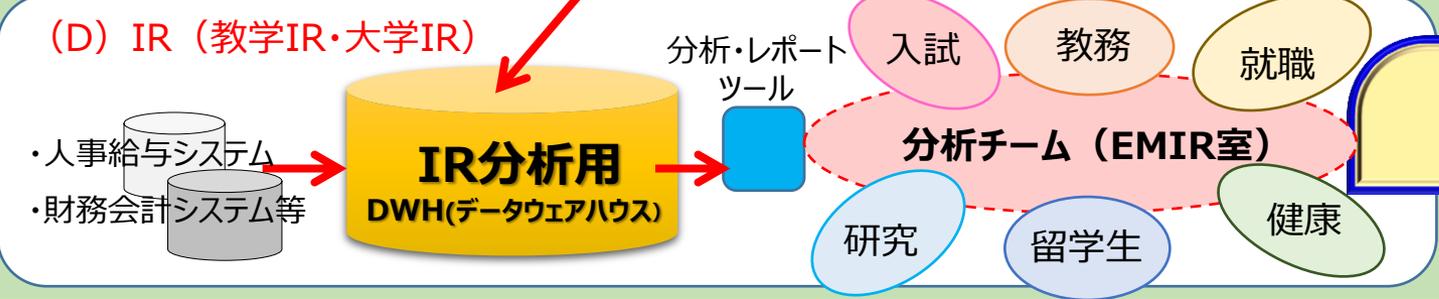
平成24年度 ~ 平成25年度



平成26年度



平成26年度



大学教育イノベーションセンター (分析担当)

アドミッション部門

学士課程教育部門

教育改善部門

教学IR部門



「学生による授業評価」の経緯

平成14年度 「学生による授業評価」の全学実施

平成23年度 システム改修に伴う実施方法の変更

全学共通7項目の設定

3年間で全科目を実施

授業評価結果の公開 (web)

授業担当者のコメント記入

平成24年度 全学モジュール科目 全科目実施

アクティブラーニングに関する5項目追加

平成25年度

公開範囲

授業担当者

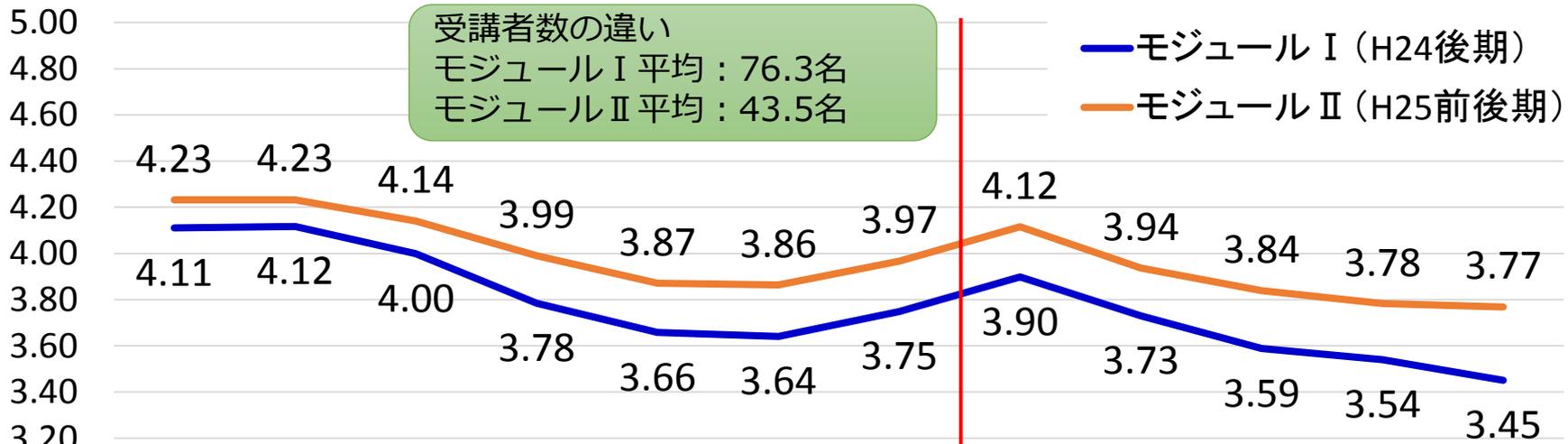
授業担当者と
受講生

学内教職員

学外



モジュールI (H24後期) × モジュールII (H25前後期) 全体集計結果

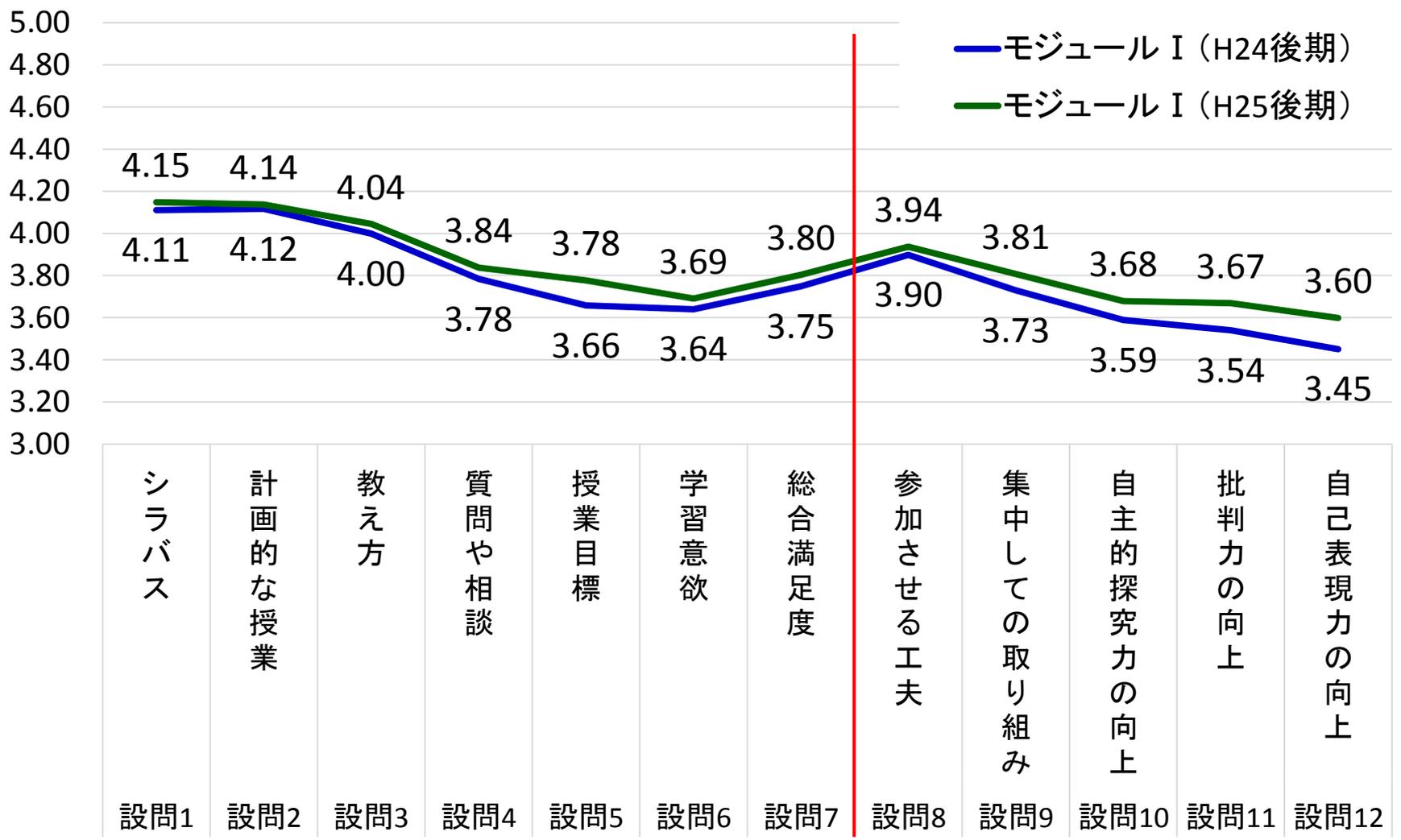


シラバス	計画的な授業	教え方	質問や相談	授業目標	学習意欲	総合満足度	参加させる工夫	集中しての取り組み	自主的探究力の向上	批判力の向上	自己表現力の向上
設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12

評価5: そう思う、評価4: どちらかといえばそう思う、評価3: どちらともいえない、評価2: どちらかといえばそう思わない、評価1: そう思わない



モジュール I (H24後期) × モジュール I (H25後期) 全体集計結果



評価5: そう思う、評価4: どちらかといえばそう思う、評価3: どちらともいえない、評価2: どちらかといえばそう思わない、評価1: そう思わない

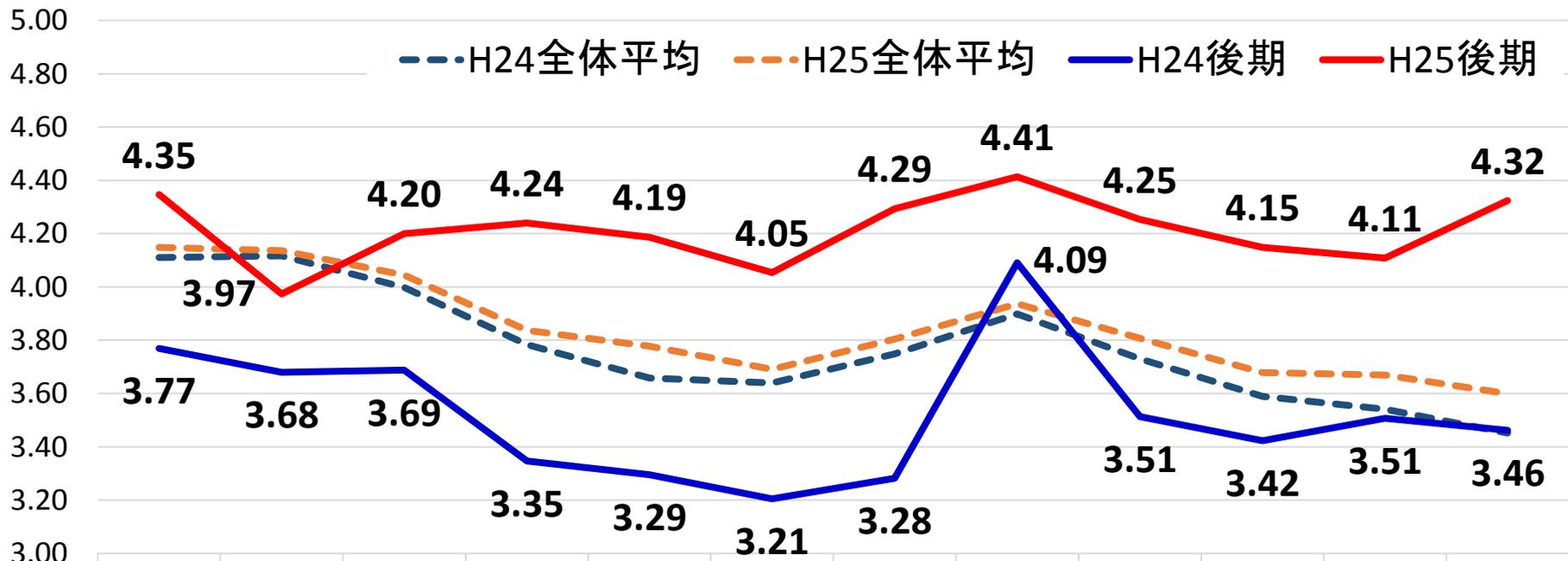


科目単位での授業評価結果

モジュールテーマ	ことばと文化	
モジュール I	マスメディアと表現	心とことば
	ジェンダーとことば	
	文字とことば	多文化理解とことば
モジュール II	脳とことば	音楽と表現
	ICTとことば	数と表現



「マスメディアと表現」の授業評価結果



シラバス	計画的な授業	教え方	質問や相談	授業目標	学習意欲	総合満足度	参加させる工夫	集中しての取り組み	自主的探究力の向上	批判力の向上	自己表現力の向上
設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12

授業改善の視点

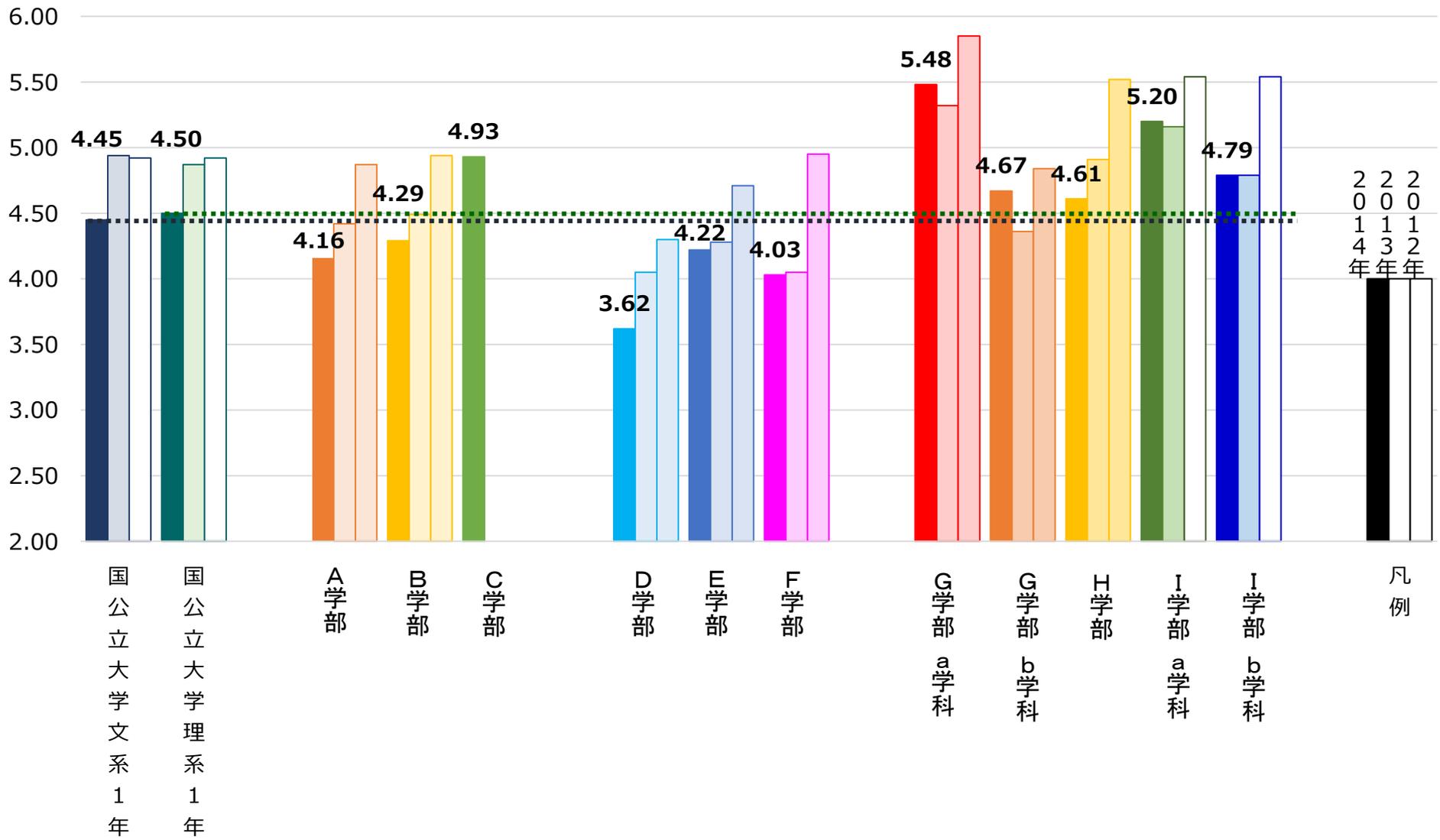
授業の流れを明確に伝え、予習レポートの趣旨を徹底

グループ作業の役割分担を授業毎に変え、責任体制を明確化

学生の実態把握をもとに、授業の方針が立てられるようになった

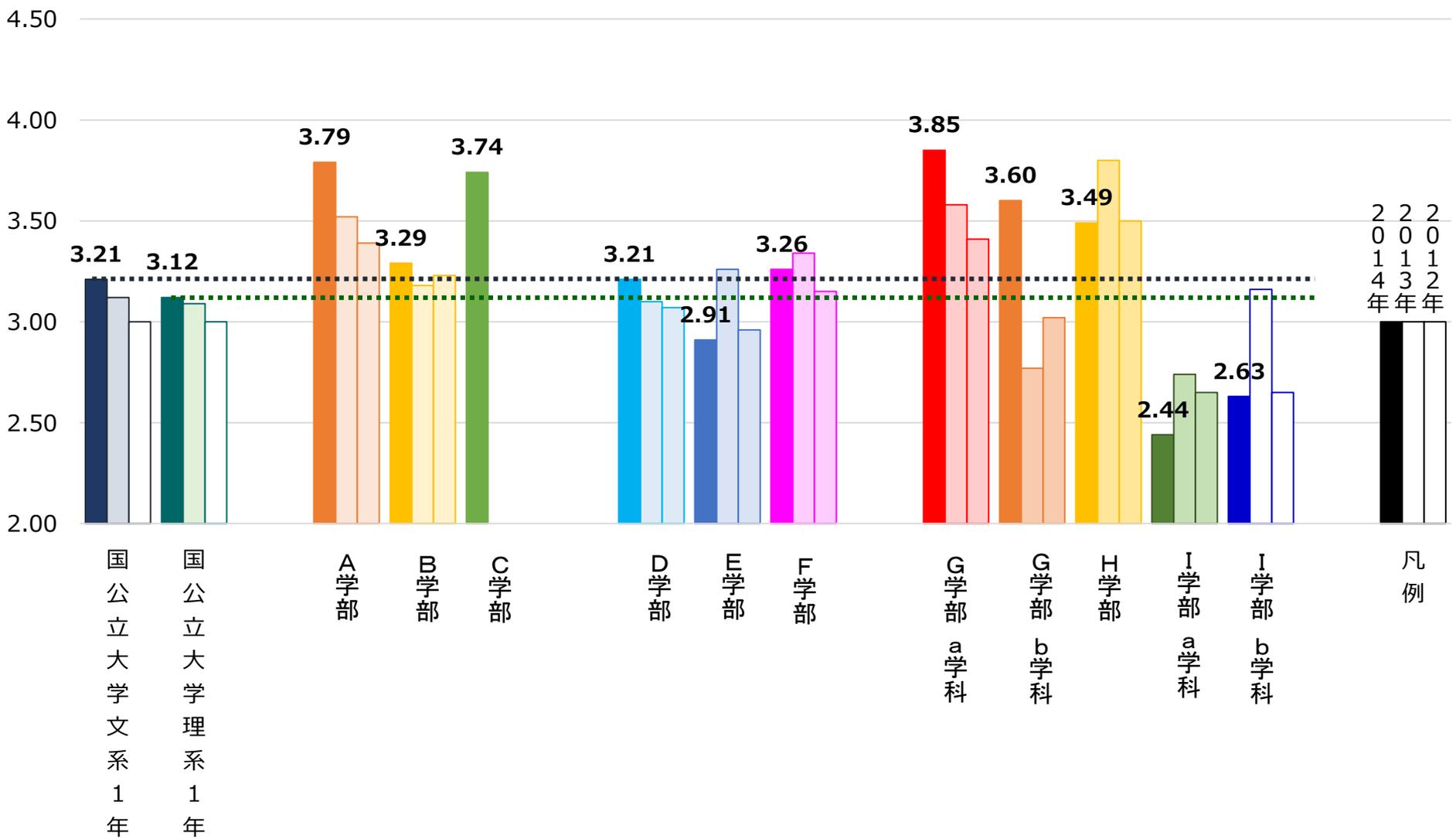


PROG集計結果推移 (リテラシー総合)





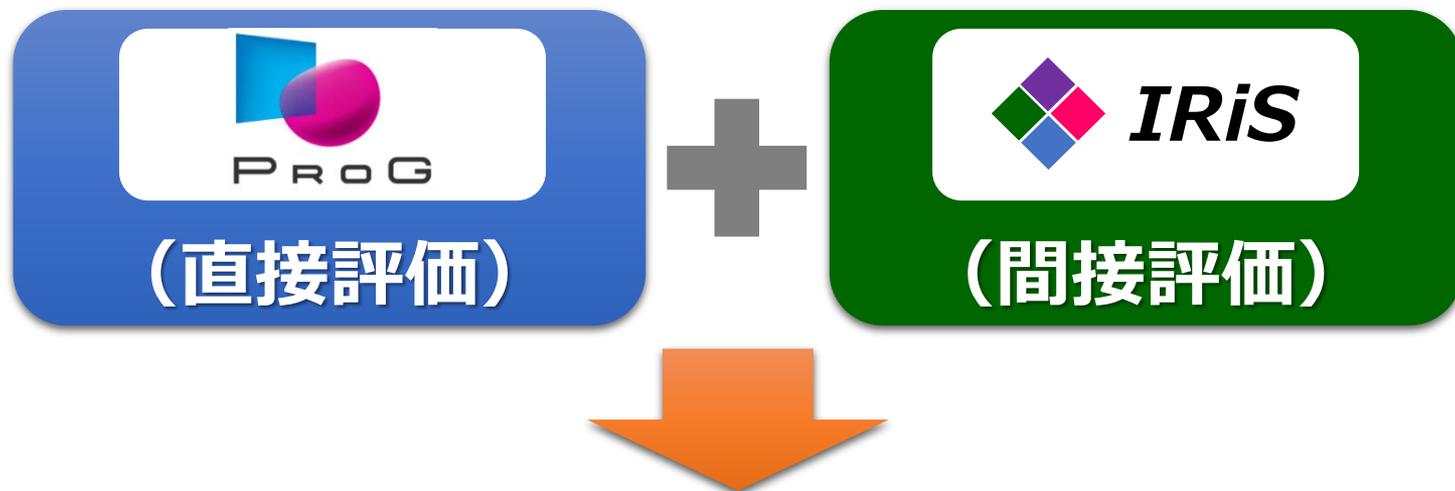
PROG集計結果推移 (コンピテンシー総合)



Research Question

学修成果の可視化

どのような学生が来て、どう伸びたか？



学生の伸びを見たい

パイロット調査

対象： 2012年度 韓国語受講生
韓国語 I (192名)
韓国語 II (191名)

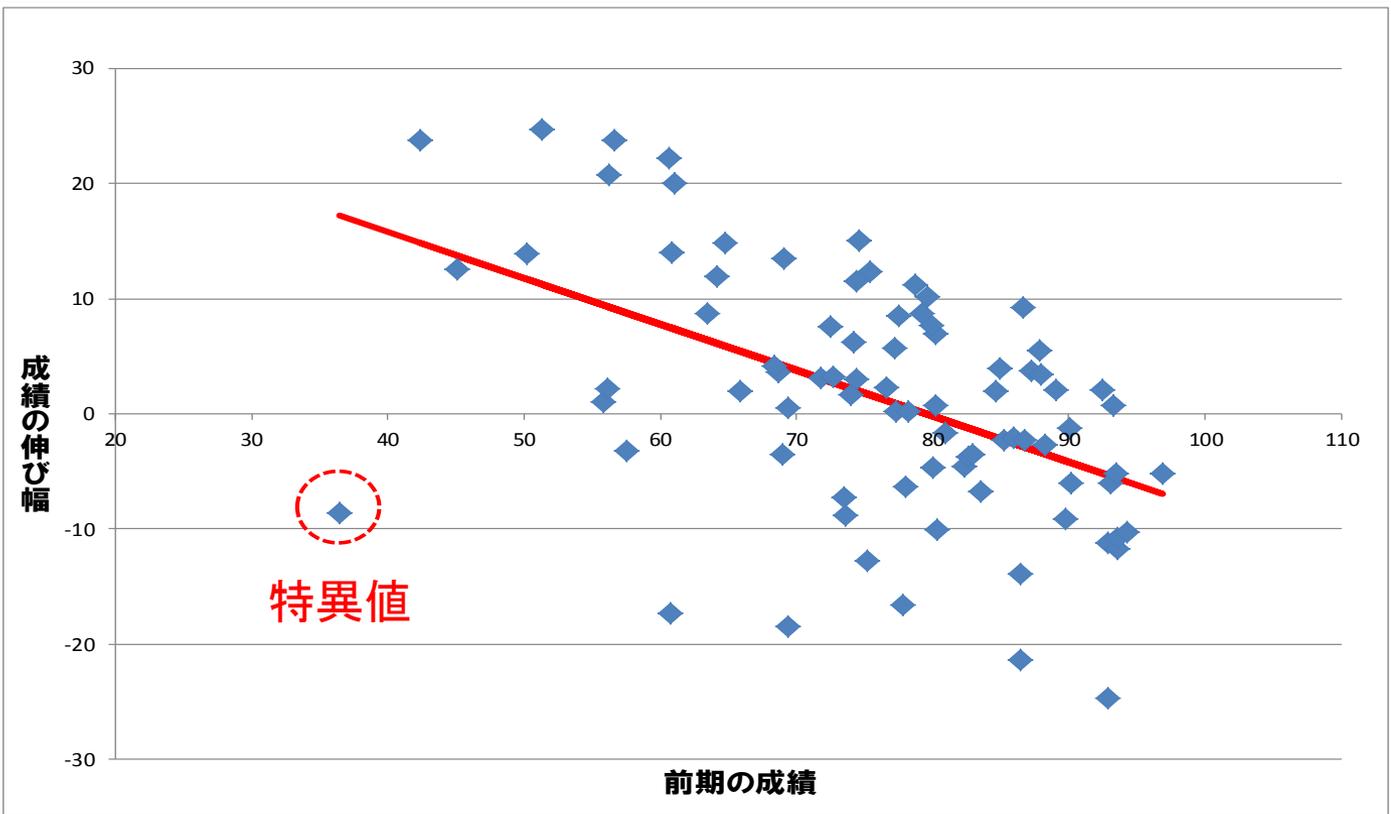
初習外国語を分析の対象とする理由
高校までの学力が影響しない

成績





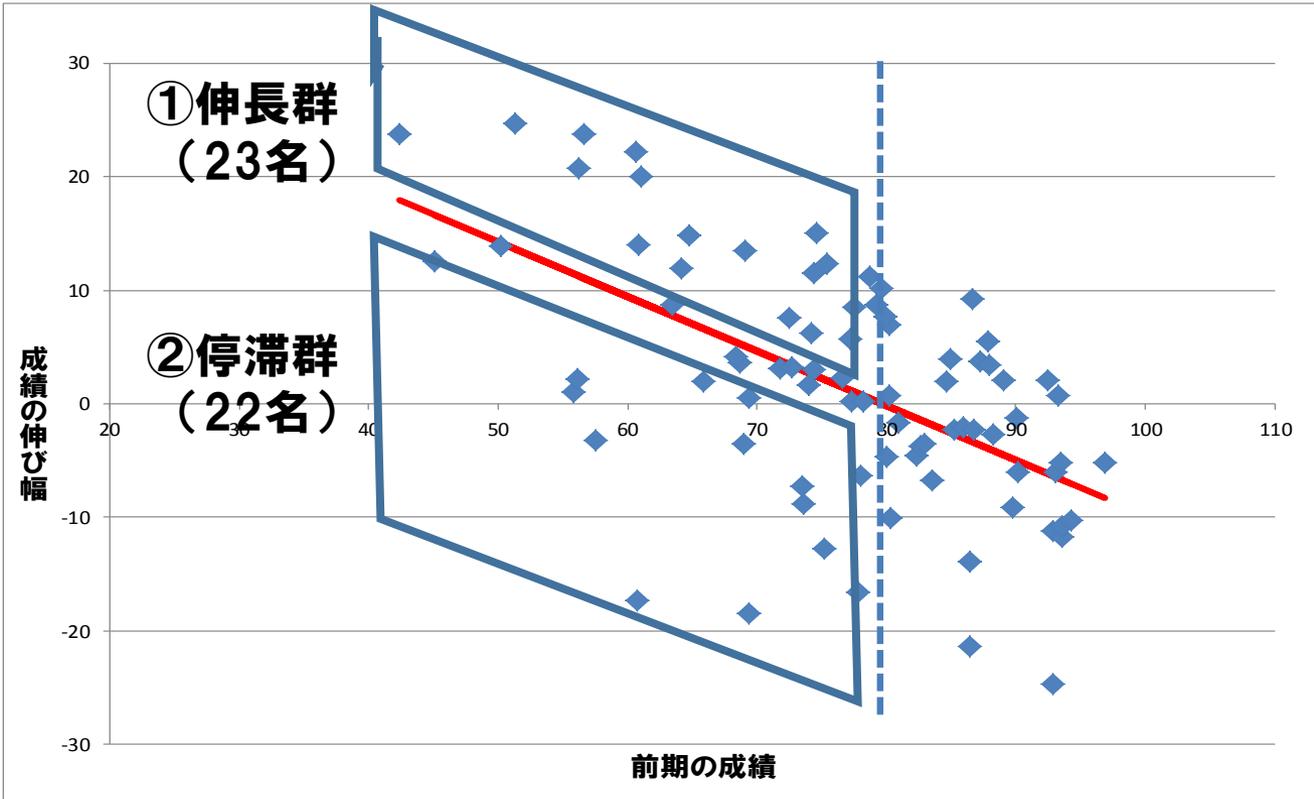
前期成績と成績伸び幅との関係（特異値を含む）



韓国語の成績の前期と後期の伸び幅を比べると、前期の成績の高低と関係が深い。つまり、前期の成績が低いほど、伸び幅が大きくなる傾向が見られる。



前期成績と成績伸び幅との関係（特異値を除く）



モデルの精度を高めるため、特異値を除いて再計算をすると、成績伸長群と成績停滞群に分けることができる。

学修成果の可視化に向けて

① 大学での「評価」と社会での「評価」を一致させる

大学での学修評価が社会で通用するものとする

② ジェネリックスキルをいかに可視化するか

PROGやIRiSを活用した可視化

③ 教員の評価力とフィードバック力を高める

大学での成長を確実なものにする